

# 伊丹福音ルーテル教会 聖霊降臨日礼拝のしおり

## 2022年6月5日

### 前奏

#### 招きのことば：詩編 104 編 24, 31-33 節

主よ、御業はいかにおびただしいことか。あなたはすべてを知恵によって成し遂げられた。地はお造りになったものに満ちている。…  
どうか、主の栄光がとこしえに続くように。主が御自分の業を喜び祝われるように。主が地を見渡されれば地は震え山に触れられれば山は煙を上げる。  
命ある限り、わたしは主に向かって歌い長らえる限り、わたしの神にほめ歌をうたおう。

#### 罪の悔い改めと赦しのことば

**会衆：** 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。

私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙祷を持ちましょう）

**牧師：** 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。  
**アーメン。**

### 使徒信条

**われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。**

**われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。**

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

**我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、限りなきいのちを信ず。アーメン。**

## 祈り

愛とあわれみに満ちておられる 私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝も共に礼拝にあずかり、罪の赦しをいただき、新しいいのちをいただいて一週間を始めます。

四十二年前の今日、あなたはこの地に教会をお始め下さいました。ここで主イエス様の生きたみ言葉が毎週欠かさず語られてきました。主イエス様にある交わりが形成され、いろいろな経験を通して私たちを鍛えて下さいました。励まして下さいました。私たちを今日まで導いて下さいました。あなたは私たちをこの上なく大切に下さり、私たちをイエス様によって赦して、あなたの子どもとしてのびのび歩ませて下さいます。私たちは神の子とされたお互いを大切に、兄弟姉妹としてあなたの祝福をわかちあって歩みます。試練の中にいる方々には特に心をとめます。まだイエス様が真実に愛してくださっていることを知らないでおられる方々にも、続いて主イエス様をわかちあって歩いていきます。

新型コロナ・ウィルスの感染拡大を防ぐために、まだ緊張感を保たなければなりません。その中でも すべて御手にゆだね安心して、あなたの子どもとして 生き生きと生きる日々を与えてください。

この祈りを、私たちの救い主であり 主である イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**

## 証しと特別賛美

### 使徒書朗読：使徒言行録 2章 1-21 節

五旬祭の日が来て、一同が一つになって集まっていると、突然、激しい風が吹いて来るような音が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた。そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。すると、一同は聖霊に満たされ、“霊”が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話した。さて、エルサレムには天下のあらゆる国から帰って来た、信心深いユダヤ人が住んでいたが、この物音に大勢の人が集まって来た。そして、だれもかれも、自分の故郷の言葉が話されているのを聞いて、あっけにとられてしまった。人々は驚き怪しんで言った。「話をしているこの人たちは、皆ガリラヤの人ではないか。どうしてわたしたちは、めいめいが生まれた故郷の言葉を聞くのだろうか。わたしたちの中には、パルティア、メディア、エラムからの者がおり、また、メソポタミア、ユダヤ、カパドキア、ポントス、アジア、フリギア、パンフィリア、エジプト、キレネに接するリビア地方などに住む者もいる。また、ローマから来て滞在中の者、ユダヤ人もいれば、ユダヤ教への改宗者もおり、クレタ、アラビアから来た者もいるのに、彼らがわたしたちの言葉で神の偉大な業を語っているのを聞こうとは。」人々は皆驚き、とまどい、「いったい、これはどういうことなのか」と互いに言った。しかし、「あの人たちは、新しいぶどう酒に酔っているのだ」と言って、あざける者もいた。すると、ペトロは十一人と共に立って、声を張り上げ、話し始めた。「ユダヤの方々、またエルサレムに住むすべての人たち、知っていただきたいことがあります。わたしの言葉に耳を傾

けてください。今は朝の九時ですから、この人たちは、あなたがたが考えているように、酒に酔っているわけではありません。そうではなく、これこそ預言者ヨエルを通して言われていたことなのです。『神は言われる。終わりの時に、わたしの霊をすべての人に注ぐ。すると、あなたたちの息子と娘は預言し、若者は幻を見、老人は夢を見る。わたしの僕やはしためにも、そのときには、わたしの霊を注ぐ。すると、彼らは預言する。上では、天に不思議な業を、下では、地に徴を示そう。血と火と立ちこめる煙が、それだ。主の偉大な輝かしい日に来る前に、太陽は暗くなり、月は血のように赤くなる。主の名を呼び求める者は皆、救われる。』

### **福音書朗読：ヨハネによる福音書 14章 8-17節**

フィリポが「主よ、わたしたちに御父をお示してください。そうすれば満足できます」と言うと、イエスは言われた。「フィリポ、こんなに長い間一緒にいるのに、わたしが分かっているのか。わたしを見た者は、父を見たのだ。なぜ、『わたしたちに御父をお示してください』と言うのか。わたしが父の内におり、父がわたしの内におられることを、信じないのか。わたしがあなたがたに言う言葉は、自分から話しているのではない。わたしの内におられる父が、その業を行っておられるのである。わたしが父の内におり、父がわたしの内におられると、わたしが言うのを信じなさい。もしそれを信じないなら、業そのものによって信じなさい。はっきり言うておく。わたしを信じる者は、わたしが行う業を行い、また、もっと大きな業を行うようになる。わたしが父のもとへ行くからである。わたしの名によって願うことは、何でもかなえてあげよう。こうして、父は子によって栄光をお受けになる。わたしの名によって何かを願うならば、わたしがかなえてあげよう。」「あなたがたは、わたしを愛しているならば、わたしの掟を守る。わたしは父にお願いしよう。父は別の弁護者を遣わして、永遠にあなたがたと一緒にいるようにしてくださる。この方は、真理の霊である。世は、この霊を見ようとも知ろうともしないので、受け入れることができない。しかし、あなたがたはこの霊を知っている。この霊があなたがたと共におり、これからも、あなたがたの内にいるからである。

### **讃美歌 183番**

- 1 主の御霊 降りまし 我が心 動かして、弱き身を 強くなし 主を愛せしめたまえ。
2. 我がいたく この願い 幻にあらずして、ひたすらに 魂の きよき姿を求めん。
3. 主よ、常に共にまし、我がたまを 支えつつ、疑いを取り去りて、み旨知らしめたまえ。
4. 主の深き み苦しみ 我がうちに 迫りきて、愛の火を 燃え立たせ、主を愛せしめたまえ。  
アーメン

### **説教：「主の名を呼び求める者」**

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

今日は聖霊降臨日、ペンテコステと呼ばれる日曜日です。イエス様がよみがえられた復活日から五十日目、ということで五旬祭という日です。この日、教会が誕生しました。この日に十二人の使徒たちが集まっているところに聖霊が激しくくだりました。そうすると彼らはひとりひとり、聖霊の語らせるままに、エルサレムに集まっていた人々の方々の故郷の言葉を操って、神様のなされた偉大なみわざについて語りました。聖霊のくだったときの大きな物音に驚いてそこにはたくさんの人が集まってきていましたが、使徒たちが大胆に故郷の言葉で話しているのを聞いて、相当驚いたようです。いったい何がおこっているのか、と不思議に思いました。

不思議なこの現象は、イエス様によって予告されていました。イエス様はよみがえられてから四十日間お弟子たちにご自分をあらわされ、そして昇天されました。天にあげられ、雲に覆われて見えなくなりました。そのとき集まっていた使徒たちに対して、あなた方は聖霊を受ける。そうすると、力を受けてエルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、そして地の果てまで、わたしの証しをするようになる、と約束されました。

教会はなぜ誕生したのでしょうか。それは、使徒たちに聖霊が注がれて神様の言葉を語ったからです。そしてその言葉を聞いて、人々は自分たちが神様の前に取り返しのつかないことをしてしまったことを悔い改めたからです。さらに、人々が主の御名を呼び求めたからです。

教会はなぜ誕生したのでしょうか。それは、使徒たちに聖霊が注がれて神様の言葉を語ったからです。イエス様が天に帰られて、約束通り聖霊がくだりました。最初にくだったときはとてもわかりやすくおこりました。今も聖霊は語っておられます。どのようにして語っておられるのでしょうか。イエス・キリストのみ言葉を通して語っておられます。そこに教会が生まれ、育てられます。教会は、イエス様のみ言葉が語られるところです。そのみ言葉によって信仰が作られ、育てられます。み言葉を語る牧師や働き人が立てられます。み言葉に聞く人々が起こされるように、また集まっている人々が神様の愛と憐みの中を歩めるように、建物や礼拝堂を用意したり、長老会や役員会などのしくみをつくったりします。

私たちも今、聖書のみ言葉を通してお働きになる聖霊の働きを受けています。聖霊はみ言葉と洗礼や聖餐という聖礼典を用いて私たちに働きかけ、ご自身のときと場所において私たちに働きかけてくださいます。

信仰は語られる聖書のみ言葉を聞くことから始まります。聖霊様は耳から入るみ言葉を用いてあなたの心の中にイエス様を信じる信仰をお作りくださいます。そしてその信仰を強めてくださいます。聖霊様は神様です。私たちの神様は三位一体といわれる父、子、聖霊の神様です。父なる神様は御子イエス様を私たちのためのお送りくださった天地の作り主です。御子イエス様は私たちのために人となってくださり、十字架にかかってすべての罪の罰を私たちの代わりに受けてくださり、私たちの罪の赦しと永遠のいのちを実現しました。聖霊様はみ言葉を通してお働きになり、洗礼によって私たちに与えられ、主イエス様の言葉である聖書の約束を信じ

る信仰を私たちのうちにお作りになります。また聖餐によって私たちの口からイエス様を与えてくださって、イエス様の死とよみがえりにあずかる信仰を強めてくださいます。

神様が信じられない、神様がおられるか、実感がない、ということがありますか。信仰や信仰体験は聖霊様が私たちのうちに与えてくださるものです。自分の心の中にはもともとイエス様に信頼する信仰はありません。自分のこだわりや知恵、正義感や神様を感じる感覚などで信仰を作り出すことはできません。聖霊様は聖書のみ言葉をお使いになって、み言葉を通して私たちに働いてくださいます。イエス様によってあなたの罪は赦されました！というお約束を聞いて、私たちは、それはわたしのために語られている、と信じることができます。

教会はなぜ始まりましたか。み言葉を聞いた人々が悔い改めたからです。人々はそのみ言葉を聞いて、自分たちが神様の前に取り返しのつかないことをしてしまったことを悔い改めたからです。今日開かれて読まれた聖書の箇所続きのところに、ペテロは聞いている人々に、あなたがたエルサレムにいる人々は、神様が遣わされた救い主のイエス様を、ローマ帝国の権威を用いて十字架につけて殺してしまいました、けれども神様はあなたがたが殺してしまったイエス様をよみがえらせました。どうしますか。私たちはその証人です。このように語るペテロや使徒たちに対して人々は「ではどうすればいいのですか」と尋ねました。ペテロは「悔い改めなさい。めいめいイエス様の名前によって洗礼を受けて罪を赦していただきなさい。そうすれば神様はあなたに贈り物として聖霊を与えてくださいます。」と答えました。まず、神様の御前に神様なしで生きていこうとする罪びとであることを悔い改めましょう。心は自分のことではいっぱいになっていて、神様のおられる場所がありません。また、神様がお与えくださったイエス様などには別に無関心でもいい、と無視することは、イエス様を十字架で殺すことと似ていますね。神様、ごめんください、と悔い改めて、その私のために十字架にかかっていたくださったイエス様の罪の赦しをいただきましょう。神様はあなたに聖霊を与えて、信仰をはぐくんで、あなたも恵まれた信仰を持つ人としてくださいます。

教会はなぜ始まりましたか。人々が主の御名を呼び求めたからです。ペテロがイエス様についてお話したことを人々は信じ、主イエス様、罪びとのわたしを憐れんでください、と呼び求めました。そこに何人の人が集まっていたのかはわかりませんがその中の三千人の人々が、主イエス様、罪びとのわたしを憐れんでください、と呼び求め、そこに教会が生まれました。

イエス様は私のために死んでよみがえってくださった、主イエス様、わたしをあわれんでください、と主の御名をよぶとき、そこに信仰が与えられ、強められ、さらに日々の生活を共に生きるお互いを愛し合う実が結ばれて、イエス様を証しする人とされます。

私たちは勘違いをして、信仰をもって歩んでいくと自分が強くなっていくように期待します。どんないやなことがあっても、どんな試練に会っても耐え忍ぶことができるように自分が強くなっていくことを期待します。けれどもそうなりませんね。また、こうなりたい、こうなったらいいなというような夢に向かって、いつもたゆむことなく積極的に前進していくように、自

分が強くなっていくことを期待します。しかしそれは残念ながらおこりません。私たちはあくまでも自分中心でわがままです。自分が力をもてたら神様もいらなくなることを願いさえします。むしろ反対です。ペンテコステは聖霊がくださった日、聖霊はみ言葉を通して働かれます。聖霊は私たちの罪やけがれを指摘します。私たちはその通りなので現実をご存じの神様の前で悔い改めます。そして罪を赦して新しい命でみなぎらせてくださる主の御名を呼びます。主イエス様、わたしを憐れんでください。主イエス様の救いを私のものとさせてくださって、実を結ぶいのちを与えてくださいます。み言葉から離れず、そこにとどまって、悔い改め続け、そして主イエス様の御名を呼び続けましょう。弱いところに完全に働いてくださるイエス様によって強められ、励まされます。私たちには難しい生活の生きにくい試練が襲います。そのときは自分の力に頼るのではなく、神様のみ言葉に聞いて従い、悔い改めてイエス様の御名を呼び求めましょう。苦しみを共に担ってくださるイエス様が、あなたと共にいてくださいます。信仰を与え、強めてくださいます。それは喜びとなり、人々にも伝わっていきます。

教会が誕生した日、聖霊降臨日の礼拝です。教会はみ言葉を聞いて、悔い改め、主の御名を呼び求めるところから始まりました。わたしの人生も、そして私たちの教会の歩みも、ここから始まります。この土台に腰を据えていきましょう。そしてみ言葉によって示されるあなたへの神様の導きと召しにこたえて、前例にとらわれず、あたらしい現実に即した隣人愛や家族愛、教会愛にいきていきましょう。心を尽くし、力を尽くして、知恵をつくして、神様と人々に役立っていきましょう。そのようにして教会は成長していきます。これからの歩みも、失敗を恐れず、主イエス様の御名を呼び求めながら、いきいきと歩んでいきましょう。赦されて、あたらしいいのちが与えられているのですから、この喜びを多くの人に分かち合って歩みましょう。

その日、使徒ペテロはほかの十一人と一緒に立って、驚いている人々にお話をしました。今、旧約聖書で予告されていたことが起こっています。神様の霊が私たちに注がれたのです。イエス様の御名を呼び求めるものはみな救われます、と語りました。

『主の名を呼び求める者は皆、救われる。』使徒言行録2章21節

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってください。アーメン

#### 讚美歌 499 番 献金 献金感謝の祈り

- 1 御霊よ、降りてむかしの如く くすしき御業を 現わしたまえ。  
※代々にいます みたまの神よ、今しもこの身に みちさせ給え。
- 2 御霊よ、降りて めぐみの雨に かわける心を 潤したまえ。 ※
- 3 御霊よ、降りて けがれを潔め、とうとき救いに 入らしめ給え。 ※
- 4 御霊よ、降りて かよわき我を きよけき力に 富ましめ給え。 ※ アーメン

### 主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあげさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。  
みこころの天になるごとく地にもなさせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。  
われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。  
われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。  
国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

### 頌栄：讃美歌 543 番

主イエスの恵みよ、父の愛よ、御霊のちからよ、あぁみ栄えよ **アーメン**

### 祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき  
お交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、  
豊かにありますように。 **アーメン**

### 後奏